



果樹課
大和屋 尚享

りんごの 日焼け対策について

6月から高温干ばつが続いており、りんごはすでに日焼け果が見られています。

日焼けすると商品性が落ち、甚大な日焼け被害になると廃棄せざるを得ない場合もあります。

今後も高温が続く予報なので、今回はりんごの日焼け対策について紹介します。

■日焼け発生の要因

●日焼けは、果皮の高温障害です。要因として、①果実への直射日光、②果実自身の蓄熱、この2つがあげられ、これらの要因によって果実の表面温度が高くなり、日焼けが発生します（写真1）。

長野県によると、直射日光にさらされた果実の表面温度が48℃～49℃に達した時に日焼け発生が認められ、50℃～51℃に達した場合は約半数に日焼けが発生するそうです。



▲(写真1)日焼け果

「つがる」では日最高気温が32℃以上の日に果実表面最高温度が51℃以上の果実が認められるとしています（信州くだものニュースより）。

しかし近年は温暖化により、日最高気温が35℃以上の猛暑日が当たり前になっていますので、対策が必須になります。

■日焼け対策として遮光資材の設置

りんごの樹に遮光資材を張ることで、直射日光による温度上昇を低減させることができます。今回は専用の遮光資材ではなく、簡単な方法で経費も低減できる方法をご紹介します。

【使用する資材】

- ・不織布（幅2・1m）※写真の不織布は遮光率約10%
- ・洗濯バサミ

「ワンポイント」

使用する不織布を樹の大きさに合わせて裁断し、枝に洗濯バサミで挟み込んで固定するだけとなります（写真2、3）。

設置自体は簡単ですが、風が強いと外れてしまう恐れがあります。薬液は通りませんので、薬剤散布の際は外します。



▲写真3 洗濯バサミで枝と不織布を挟み込んで固定



▲写真2 不織布を設置した様子

◇お問い合わせ◇
果樹課

☎0182-2316266